

解事項を全理事が確認し、覚書として残すことになった。—

4. 定款の細則「各賞受賞者選定規定」の改正
 中村庶務担当理事から総会議案について提案の主旨説明があり議案どおり承認された。
 議論一受賞者は「学会員とする」として理事の承認を得ていたが総会議案では再び削除することに変更したことについて議論された。総会議案は訂正しないことになり、各賞受賞者と学会員であることの関係について中村理事が整理し、覚書として全理事の承認を得ることになった。—
5. ICSU/WMO JSCU FOR WCRP 開催の後援について
 松野理事から1990年3月5—10日に東京で開催される標記の会議の後援名義について承諾が求められ承認された。
6. 平成2年度以降の気象学会大会の開催について
 - ア. 平成2年度の開催はこれまでの順番に従い、春は東京管区気象台、秋は関西支部が担当する案が承認された。
 - イ. 3年度以降について、開催地順番の見直し案（会員数の変遷等による）が提案され審議の結果つぎの通り決まった（表参照）。
7. 韓国気象学会の会長を秋季大会に招待することについて

春季大会	秋季大会
・東京管区気象台	・関西支部
・東京大学	・中部支部
・筑波地区	・北海道支部
・気象庁予報部	・東北支部
・気象庁観測部と気象大学校が交代で担当	・九州支部

韓国の気象学会春季大会に理事長が招待され出席したことに関連して、沖縄の秋季大会に韓国気象学会の会長を招待することが理事長から提案され審議された。韓国としては日本気象学会との強い交流を希望しており日本気象学会にも会員が多数入会していることもあり国際交流事業の一環として意義深いこととして承認された。
 沖縄大会の実行委員会は実質的には6月から活動を開始するので、韓国気象学会会長の講演スケジュールなどを検討することになった。

C. その他

1. 地球物理学に関連する、諸学会の春季大会を同時に同じ場所で開催することについて、地震学会、地球電磁気学会等から文書により意向打診があったとの説明が理事長よりあった。
 次期常任理事会の議題とすることとした。

編集後記：6月末の天気編集委員会では、定常の議題に加えて、今後の「解説」のテーマについて検討が行われました。この際、「天気」の内容のより一層の充実と親しみを持てる紙面作りのために、昨年10月から今年3月まで実施した「天気」のアンケート結果(中間集計)をもとにしました。会員の掲載希望テーマは、ポピュラーなも

のから深い専門分野まで多岐にわたっており（中には執筆者を指名したものも入っていました）、非常に参考となりました。これから、各分野の専門の方々へ解説の執筆をお願いするなどの作業が続きますので、「解説」を担当される方もよろしくお願ひします。多くの会員に満足のゆく「解説」が届けられればと思っています。（曜）